

永遠の真理

ETERNAL TRUTH



2016 年 1 月

「聖所」 「献身した生涯」 「イエス・キリストの啓示」

永遠の真理

いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

目次

今月の聖書勉強

「聖所」

4

聖書の教え

朝のマナ

「献身した生涯」

7

今日のわたしの生涯

現代の真理

「イエス・キリストの啓示」

39

七つの封印と生ける神の印

力を得るための食事

「ピーマンの詰め焼き」

46

お話コーナー

「イエスさまのお誕生(上)」

48

イエスの物語

教会

【正丸教会】

〒368-0071 埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

電話：0494-22-0465

FAX：0494-40-1045

【高知集会所】

〒780-8015 高知県高知市百石町 1-17-2

電話：088-831-9535

【沖縄集会所】

〒905-2261 沖縄県名護市天仁屋 600-21

電話：0980-55-8136

アクセス

ホームページ：<http://www.4angels.jp>

メール：support@4angels.jp

発行日 2015 年 12 月 31 日

編集&発行 SDA 改革運動日本ミッション

〒368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

Illustrations: Getty Images on front cover;

HighRes on pages 8, 52

Printed in Japan

真の教育は準備である

真の教育とは、あらゆる義務を遂行することができるように、体的、知的、道徳的能力を準備することである。それは、体と心と魂を神の奉仕のために訓練することである。これは、永遠の生命につながる教育である。(キリストの実物教訓 304, 305)

神に仕えていると言いながら、神に関する体験的知識を持っていないものが多い。神のみこころを行ないたいという願いも、ただ一時の気まぐれによるもので、心が聖霊に深く感動したためではない。彼らの行動は、神の律法と一致していない。口ではキリストを救い主として信じると言いながら、キリストが彼らに罪に打ち勝つ力をお与えになることを信じない。彼らは、生きた救い主と個人的接触がなく、彼らの品性は、先天的、および後天的欠陥を示している。(キリストの実物教訓 25)

聖書の探究によって受け得る教育は、救いの計画を体験的に知ることである。このような教育は、魂のなかに神のみかたちを回復する。それは、誘惑に対して生徒の心を強固にし、この世界に対するキリストの恵みの働きを、キリストとともにするのに、適した者にする。この教育は、彼を神の家族の一員とし、光の中にある聖徒たちの嗣業にあずからせる。(キリストの実物教訓 19)

「永遠の命とは、唯一の、まことの神でいますあなたと、また、あなたがつかわされたイエス・キリストとを知ることであります」(ヨハネ 17:3)。これが真の教育である。これが、人に力を与えるものである。神と、神がつかわされたイエス・キリストを体験によって知ることは、人間を神のみ姿に変えるのである。これは、人を自己を治めるものにする。低い性質の衝動と欲望とは、高度の意志の力に支配されるようになる。そして、それは、また、彼を神の子すなわち、天国の相続人とし、無限の神との交わりに入れ、宇宙の豊富な富を開いて見せるのである。

これが神のことばの探究によって得られる知識である。そして、この宝は、それを得ようとしてすべてをささげる者なら、だれにでも見いだすことができるものである。(キリストの実物教訓 90, 91)

聖書の教えXIII

10 章 聖所

主はイスラエル人に聖所、すなわち幕屋を建てるようにお命じになりました。これは神が住まわれる聖なる場所の型でした（出エジプト記 25:8; 詩篇 77:13）。それは燔祭の祭壇と聖所の入り口の前にある祭司が身を洗う洗盤のある宮からなっていました。幕屋自体には聖所と至聖所の二つの部屋がありました。聖所に関連する祭司の奉仕は、「人間によらず主によって設けられた」真の幕屋における、キリスト、すなわちわたしたちの大祭司の働きを象徴していました（ヘブル 8:1-5; 9:19-28）。

昇天されると、キリストは天の聖所における第一の部屋でご自分の仲保の奉仕を始められました。そこで 1800 年を超えて、このお方は全ての告白された罪のための贖罪としてご自分の血の功績をお捧げになりました（ヨハネ 1:29; ローマ 5:8-11; 8:34）。ダニエル 8:14 の預言にしたがって、1844 年にキリストは悔い改めた罪人の罪から清めるために至聖所における第二の且つ最後のご自分の奉仕に入られました。この働きはまた調査審判と呼ばれています（黙示録 11:18, 19; 20:12; 22:12）。死人また生ける者の中から命の書に自分の名がしるされた全ての人の生涯が調べられますが、自分の罪を告白し、捨てた者だけが、その名を命の書にとどめ、その罪が覚えの書から除去されることになります（ダニエル 7:9-14; ペテロ第一 4:17, 18）。

キリストが、ご自身の血の功績を通して、ご自分の忠実な子らの罪の記録を人類の恩恵期間の終了時に聖所から取り除かれるとき（黙示録 22:11, 12）、このお方はそれらの罪をアザゼルのやぎであるサタンに置かれ、裁きの執行の時には、サタンは自分が聖徒たちに犯させた全ての罪の最終的な責任を負わなければなりません（レビ記 16:8-10, 21, 22）。

「民として、わたしたちは預言を学ぶ熱心な生徒となるべきである。わたしたちがダニエルとヨハネの幻の中で表された聖所の主題に関して知的になるまでは安んじるべきではない。この主題はわたしたちの現在の立場と働きに大いなる光を注ぎ、わたしたちが過去の経験において神に導かれてきたという誤りようのない

証拠を与える。それはわたしたちに 1844 年の失望を説明し、清められるべき聖所がわたしたちの考えていたように地上だったのではなく、キリストはその時、天の聖所の至聖所に入られたのであり、そこで預言者ダニエルに語った「二千三百の夕と朝までである。それから聖所が清められる」というみ使いの言葉の成就として、ご自分の祭司の職務の最後の働きをなしておられるのであることを示すのである」(伝道 222, 223)

「聖所と調査審判の問題は、神の民によってはっきりと理解されねばならない。すべての者は、自分たちの大いなる大祭司キリストの立場と働きについて、自分で知っている必要がある。そうしなければ、この時代にあつて必要な信仰を働かせることも、神が彼らのために計画しておられる立場を占めることもできなくなる。ひとりびとりの魂は、救われるか、滅びるか、そのどちらかなのである。各自は、今、神に裁かれようとしている」(各時代の斗争闘下巻 222)。

「天の聖所における奉仕の正しい理解は、わたしたちの信仰の基礎である」(伝道 221)。

「われわれは、今、大いなる贖罪の日に生存している。型としての儀式においては、大祭司がイスラエルのために贖罪をなしている間、すべての者は、主の前に罪を悔い改め、心を低くすることによって、身を悩まさなければならなかった。もしそうしなければ、彼らは、民の中から絶たれるのであった。それと同様に、自分たちの名がいのちの書にとどめられることを願うものはみな、今、残り少ない恩恵期間のうちに、罪を悲しみ、真に悔い改めて、神の前に身を悩まさなければならぬ。われわれは、心を深く忠実に探らなければならぬ。多くの自称キリスト者がいだいている軽薄な精神は、捨て去らねばならぬ。われわれを打ち負かさそうとする悪癖に勝利しようとする者は、みな、はげしく戦わなければならぬ。準備は、一人一人がしなければならぬ。われわれは、団体として救われるのではない。一人の者の純潔と献身は、これらの資格を欠く他の人の埋め合わせにはならない。すべての国民が神の前で審判を受けるのであるが、しかし神は、あたかもこの地上にその人一人しかいないかのように、厳密に一人一人を審査されるのである。すべての者が調べられねばならぬ。そして、しみもしわもそのたぐいのものがいっさいあつてはならないのである。

贖罪の働きが終結しようとするときの光景は、実に厳粛である。そこには、実に重大な意義が含まれている。審判は今、天の聖所において進行中である。長

年にわたって、この働きは続けられてきた。間もなく—その時がいつかはだれも知らないが—生きている人々の番になる。神のおそるべき御前で、われわれの生涯が調査されねばならない。今は、他のどんな時にもまさって、すべての者が救い主の勧告に心をとめるべき時である。「気をつけて、目をさましていなさい。その時がいつであるか、あなたがたにはわからないからである」(マルコ 13:33)。「もし目をさましていないなら、わたしは盗人のように来るであろう。どんな時にあなたのところに来るか、あなたには決してわからない」(黙示録 3:3)。

調査審判の働きが終わるとき、すべての人の運命は、生か死かに決定されてしまっている。恩恵期間は、主が天の雲に乗って来られる少し前に終了する。キリストは、その時を予見して、黙示録の中で次のように宣言しておられる。「不義な者はさらに不義を行い、汚れた者はさらに汚れたことを行い、義なる者はさらに義を行い、聖なる者はさらに聖なることを行うまにさせよ。見よ、わたしはすぐに来る。報いを携えてきて、それぞれのしわざに応じて報いよう」(黙示録 22:11, 12)」(各時代の大争闘下巻 224, 225)。

今日のわたしの生涯

My Life Today



1月「献身した生涯」

義の道は命である

「正義の道には命がある、しかし誤りの道は死に至る」(箴言 12:28)

新しい年が、今あなたの前に、何も書かれておらず汚れないページを開いている。記録天使は書く用意をして立っている。あなたの一連の行動は彼によって何が記されるかを決定する。あなたはあなたの将来を良くも悪くもできる。そしてこれが、あなたがまさに入ったばかりのこの年を幸せな新年とするかどうかを決定するのである。あなた自身とあなたの周りにいる人たちにとってそのような年にするかどうかはあなた自身の力の範疇(はんちゅう)にある。(ユース・インストラクター-1881年1月5日)

忍耐と、寛容と、親切と愛とがあなたの存在の一部となるようにしなさい。そうすれば、すべて純真なこと、すべて愛すべきこと、すべてほまれあることがあなたの経験のうちで完成する。(サインズ・オブ・タイムズ 1883年1月4日)

神のみ使たちはあなたに命の道を示そうと待っている。……今、この新年が始まるときに、義の道を選ぶこと、熱心で誠実であること、そしてあなたにある命が間違いではなかったことを証明することを決心しなさい。前進しなさい。天のみ使たちに導かれて、勇気をもって、進取の気性をもって、あなたの光を輝かしなさい、そうすれば靈感の言葉をあなたに当てはめることができる。「あなたがたに書きおくれたのは、あなたがたが強い者であり、神の言があなたがたに宿り、そして、あなたがたが悪しき者にうち勝ったからである」。(ユース・インストラクター-1881年1月5日)

自分自身をキリストにささげるなら、あなたは神の家族の一員であり、父の家のものはすべて、あなたのものなのである。神の宝はすべて、今の世にあっても来たるべき世にあっても、あなたに開かれている。天使の奉仕、聖霊の賜物、神のしもべたちの働き—これらすべてはあなたのためである。世界と、その中にあるすべてのものは、それがあなたに役立つ限り、あなたのものである。悪者から受ける敵意さえも、天国へはいるための鍛練として祝福となるのである。もし「あなたがたはキリストのもの」であるなら、「すべては、あなたがたのものなのである」。(祝福の山 138)

わたしのすべてを捧げる

「兄弟たちよ。そういうわけで、神のあわれみによってあなたがたに勧める。あなたがたのからだを、神に喜ばれる、生きた、聖なる供え物としてささげなさい。それが、あなたがたのなすべき霊的な礼拝である」(ローマ 12：1)

神はご自分の方法に全霊を傾けた献身を要求しておられる。わたしたちの最高の力は注意深く培われなければならない。わたしたちのタラントは用いるために神からわたしたちに貸し与えられたものであって、悪用したり、乱用したりするためではない。それらは神の働きをすることができるよう、用いることによって活用されねばならない。(ユス・インストラクター 1898 年 6 月 30 日)

我々は自らを神の礼拝のためにささげなければならない。そして、この供え物をできるだけ完全に近いものとするように努めるべきである。神は、我々のささげ得る最善のものでなければお喜びにならないのである。心から神を愛する者は、生涯の最上の奉仕を神にささげたいと望み、神のみこころを行なう能力を増進する律法に、自分たちの持っているあらゆる力を調和させようと絶えずつとめるのである。(人類のあけぼの上巻 415)

個人的な献身が必要である。そしてわたしたちは、心の聖潔が培われ、大事にされない限りそうすることはできない。(レビュー・アンド・ヘラルド 1900 年 10 月 2 日)

次のように祈ろう。「主よ、しもべを全くあなたのものとしてお受け入れください。わたしのすべての計画をあなたのみ前におきます。どうか、しもべをきょうもご用のためにお用いください。どうか、わたしと共にいましたもうて、すべてのことをあなたにあつてなさしてください」と。これは毎日のことである。(キリストへの道 93,94)

わたしたちのすべての力を神に明け渡すことによって、人生の問題は大いに単純化する。それは、生来の心の感情との何千もの戦いを弱め、短く終了させる。宗教は老若共に魂をキリストに結びつける金のひもである。宗教を通して、喜んで服従する者は暗く入り組んだ道を神の都まで安全に連れていかれるのである。

.....

神の深い事柄がどれほど多くわたしたちの前に開かれてきたことであろう。そしてわたしたちは何とこれらの尊い特権を高く重んずるべきであろう。……天の光の明るい光線は、あなたの道を照らしている……天来の光線をすべて受け入れ、大事にしなさい。そうすればあなたの道はますます明るくなって真昼となるであろう。(ユス・インストラクター 1893 年 2 月 2 日)

わたしはわたしの心を捧げる

「わが子よ、あなたの心をわたしに与え、あなたの目をわたしの道に注げ」（箴言 23 : 26）

主はわたしたち一人びとりに仰せになる。「わが子よ、あなたの心をわたしに与え」よ。このお方はあなたの混乱をご覧になる。このお方はあなたの魂が罪に病んでいることをご存知である。そしてこのお方はあなたに「あなたの罪は許された」と仰せになりたいと望んでおられる。偉大な医者ほどの病に対する治療法をも持っておられる。このお方はあなたの事情をご存知である。あなたの過ちがどのようなものであっても、このお方はそれらをどのように取り扱うかをご存知である。あなたは自分自身をこのお方にゆだねないのであろうか。（ユース・インストラクター 1902 年 2 月 13 日）

神の祝福はご自分に完全な献身を捧げるすべての魂にとどまる。わたしたちが全心を神を求めるとき、わたしたちはこのお方を見出す。神は本気でわたしたちと共におられる。そしてこのお方はわたしたちが永遠のために徹底的な働きをすることを望んでおられる。このお方は一つの賜物の中に全天を注ぎだされたのである。そしてわたしたちにはこのお方の愛を疑うべき理由は何もない。カルバリーを見なさい……

神はあなたの心をご自分に捧げるようにと言われる。あなたの力、あなたのタラント、あなたの愛情はすべてこのお方に明け渡されるべきである。それはこのお方があなたがたのうちに働きかけて、その願いを起させ、かつ実現に至らせ、永遠の命にふさわしい者となさるためである。（ビュー・アソッド・ヘラルド 1891 年 5 月 5 日）

もしキリストが心に宿るならば、魂は彼の愛と、彼との交わりより来る大きな喜びに満ちあふれて、キリストに結びつき、彼を熟視しておのれを忘れてしまう。そしてキリストへの愛が行動の源泉となる。神の強く迫る愛に感激した者は、どのくらいさげれば神のご要求を満たすことができようかなどと最低の標準を尋ねたりしないで、贖い主のみ心に全く服従したいと望むのである。熱心に、希望にあふれてすべてをささげ、彼らが求めている高価なものにふさわしい関心を示すのである。（キリストへの道 56）

神が求めておられるのは素直で教えを受ける精神である。祈りに美德を与えるのは、それが愛する従順な心からの呼吸であるという事実である。（牧師への証 419）

信仰をもって求める

「ただ、疑わないで、信仰をもって願い求めなさい。疑う人は、風の吹くままに揺れ動く海の波に似ている」(ヤコブ 1:6)

わたしたちがサタンのたくらみを感知し、その力に抵抗する強さを得ることができるよう、天からの光を受けることはわたしたちの特権であり、義務である。わたしたちのために、キリストと緊密なつながりを持ち、神の御使たちの絶えざる保護をいただくための備えがなされてきた。わたしたちの信仰は、イエスがわたしたちのために入られた幕の内に達しなくてはならない。わたしたちは、もっと堅く、変わることのない神の約束をつかまなくてはならない。わたしたちは、打ち消されることのない信仰、すなわち見えないお方をつかむ信仰、堅固で動かされることのない信仰を持たなくてはならない。そのような信仰は、わたしたちの魂に天の祝福をもたらす。キリストのみ顔に輝く神の栄光の光がわたしたちを照らし、そして四方に反射する。そうすれば、わたしたちについて、真に「あなたがたは世の光である」ということができるのである。そして魂とキリストとのこのつながり、これだけが、世に光をもたらすことができるのである。このつながりがなければ、地上はまったくの闇のうちに取り残されてしまうことであろう。……周囲の闇が濃くなればなるほど、クリスチャンの信仰とクリスチャンの模範の光が明るく輝き出るべきである。

不信が広く行き渡っているという事実、悪がわたしたちの四方に増し加わっているという事実が、わたしたちの信仰をおぼろげにしたり、わたしたちの勇気を揺り動かしたりすることがあってはならない。……もしわたしたちが全気で神を求めさえすれば、もしわたしたちが同じ断固とした熱心さで働くならば、そしてあきらめない信仰を持って信じるならば天の光が献身していたエノクを照らしたように、わたしたちを照らすのである。(ビュー・アソッド・ワールド 1888 年 10 月 23 日)

ああ、わたしが信仰を毎瞬間、毎時間働かせる重要性をすべての人に印象づけることができるなら！わたしたちは、信仰の生涯を生きるべきである。なぜなら、「信仰がなくては、神に喜ばれることはできない」からである。わたしたちの霊的な力は、わたしたちの信仰にかかっている。(ヒストリカル・スケッチ 130、131)

すべてのことが可能である

「信ずる者には、どんな事でもできる」(マルコ 9:23)

わたしたちを天とつなぎ、暗黒の力に抵抗することができるようにするものは信仰である。すべての悪い素質にうち勝ち、どんなに強い誘惑にも抵抗する方法を神はキリストによってお備えになった。(ミストリー・オブ・ヒーリング 40)

義人はいつも、上よりの助けを得てきた。何としばしば神の敵は、神に信頼する少数の単純な人々の品性と感化力とを破壊するために自分たちの力と知恵を結束させてきたことであろう。しかし、主が彼らの側におられるゆえ、何者も彼らに対して打ち勝つことはできなかった。……彼らに、自分の偶像と世から分離させなさい。そうすれば世が彼らを神から分離させることはない。キリストはわたしたちのいと近き、不足するところのない救い主であられる。このお方のうちにあらゆるものが満ち満ちている。キリストが自分たちのうちにあって真理であることを本当に知ることはクリスチャンの特権である。「わたしたちの信仰こそ、世に勝たしめた勝利の力である」。すべてのことが信じる者に可能である。そして何であつても、わたしたちが祈るとき、それを受けると信じるならば、わたしたちの望むものがわたしたちのものとなるのである。この信仰は最も暗い雲も貫き、うなだれて、意気消沈している魂に光線と希望をもたらす。困惑と、痛ましい恐れと邪推をもたらすのは、この信仰と信頼がないためである。神はご自分の民がご自分に完全に信頼を置くとき、大いなることをなさる。(教会への証 2 巻 139,140)

神の民は信仰によって、「国々を征服し、義を行い、約束のものを受け、ししの口をふさぎ、火の勢いを消し、つるぎの刃をのがれ、弱いものは強くされ、戦いの勇者となり、他国の軍を退かせた」(ヘブル 11:33、34)。我々も今日、信仰によって我々に対する神のみこころの高い水準に到達しなければならない。(国と指導者上巻 125)

神を信じる信仰をもちなさい

「とこしえに主に信頼せよ、主なる神はとこしえの岩だからである。」(イザヤ 26:4)

偉大さ、力、栄光、勝利、そして大権はこのお方のものである。わたしたちは、イスラエルの聖なるお方を制限しないようにしよう。……

わたしたちは、いかなる悩みのときにも何という源を見ることができることであろうか。心に何の危惧も抱くことができない!人は間違いを犯し、頑固で反抗的で、神に対してさえ挑戦的である。しかし主は、親切で忍耐強く優しい思いやりのお方である。このお方は天と地をご自分の掌中(しょうちゅう)におさめておられる。そしてこのお方はわたしたちが自分たちの必要と願いをこのお方の前に示す以前にさえ、まさにわたしたちの必要としているものをご存知である。

わたしたちは、自分の前の行く先をほんのわずかにしか見ることができない。しかし「すべてのものは、神の目には裸であり、あらわにされているのである。この神に対して、わたしたちは言い開きをしなくてはならない」。このお方は、決して混乱したりなさらない、このお方はあらゆる地上の混乱と騒動を超越して座し、すべてのものはこのお方の神聖な調査に対して開かれている。そしてこのお方は、永遠の昔から、ご自分の摂理が最上とごらんになることをお命じになることができるのである。

もし、わたしたちが自分たちの計画のままにほうっておかれるならば、わたしたちは間違いを犯す。わたしたちの偏見、わたしたちの弱さ、わたしたちの自己欺瞞、そしてわたしたちの無知は、多くの方法で現れる。しかし、働きは主のものである。み事業はこのお方のものである。このお方は決してご自分の働き人を神の指示なしにほうっておいたりはなさらない。……

どのような重荷が重くのしかかっても、それらを主のもとに下ろしなさい。イスラエルを守る者はまどろむこともなく、眠ることもない。神のうちに安らぎなさい。その思いが神にとどまっている者は完全な平安のうちに保たれる。

時々、あなたは次の一步を進めることができないように思える。では、待つて、「わたしが神である」ことを知りなさい。「強く、また雄々しくあれ。あなたがどこへ行くにも、あなたの神、主が共におられるゆえ、恐れてはならない、おのいてはならない」。……わたしたちは信仰を心に抱いている必要がある。(手紙 19 e 1892 年)

あなたは神をみ言葉どおりに受け入れる単純なわざを学ぶ必要がある。そのとき、あなたは自分の足の下には確かな地盤がある。(ユース・インストラクター 1886 年 8 月 18 日)

信仰によって神と一つ

「父よ、それは、あなたがわたしのうちにおられ、わたしがあなたのうちにいるように、みんなの者が一つとなるためであります」(ヨハネ 17:21)

「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である」。わたしたちは、これ以上にキリストとの緊密な関係を理解することができるであろうか。枝の繊維はほとんどぶどうの木の繊維と同一である。幹から枝に伝達される命、力、実りはさえぎられることなく絶えることもない。根は枝を通してその栄養を送る。キリストと真の信者との関係はそのようなものである。彼はキリストのうちにおり、そして自分の栄養をこの方から受ける。

この霊的な関係は、ただ個人的に信仰を働かせることによってのみ確立される。この信仰は、わたしたちの側で、最優先すること、完全により頼むこと、余すことなく献身することを表現しなければならない。わたしたちの意志は完全に神のみ旨に明け渡されなければならない。わたしたちの感情、願望、関心、誉れは、キリストの王国の繁栄とこの方への働きと一つになり、わたしたちは、絶えずこの方から恵みを受けて、キリストはわたしたちから感謝をお受けになるのである。

この関係と交わりの緊密さが形造られると、わたしたちの罪はキリストの上におかれ、この方への義がわたしたちに与えられる。この方はわたしたちのために罪となられた。それはわたしたちがご自身にあって神の義となることができるためである。わたしたちはこの方を通して神の御許へ行くことができる。わたしたちは、愛されている方を通して受け入れられている。だれでも言葉と行いによって信者を傷つける者は、それによってイエスを傷つけているのである。だれでもその人が神の子であるからといって冷たい水を弟子に与える者を、キリストはご自身に与えたものとみなされる。

キリストが信者に対するご自分の関係の美しい象徴を弟子たちにお与えになったのは、ご自分がその彼らを残して行かれようとするときであった。……生きた信仰によってつながるキリストとの結合は永続的なものである。ほかのすべての結合は滅びなければならない。……真の信者はすべてのことにおいてキリストを最初、最後、そして最上のものとして選ぶのである。(レビュー・アンド・ヘラルド 1887年12月13日)

何も疑わない

「信仰の薄い者よ、なぜ疑ったのか」(マタイ 14:31)

生涯は、すべてが快適な牧草地と冷たい小川だけで成り立っているわけではない。試練や失望がわたしたちに襲いかかる。喪失がやってくる。わたしたちは、苦しい立場におかれる。良心がとがめられて、わたしたちは自分たちが神から離れて歩んだに違いないと理由づける。もしわたしたちがこのお方と共に歩んできたなら、わたしたちはこのように苦しむことはなかったはずである。疑いと落胆がわたしたちの心に押し寄せ、わたしたちは、主がわたしたちを見捨てられた、そしてわたしたちは、ひどい仕打ちを受けたと言うのである。なぜこのお方はわたしたちがこのように苦しむことを許されるのであろう。このお方はわたしたちを愛しておられないに違いない。もし、このお方がわたしたちを愛しておられるならば、わたしたちの道からすべての困難をとりのぞいてくださるであらうに。……

このお方はいつもわたしたちを快適な場所においてくださるとは限らない。もしこのお方がそうするならば、わたしたちの自己満足によって、神がわたしたちの助け主であられることを忘れてしまうであらう。このお方はわたしたちにご自分を表したいと望んでおられる。そしてわたしたちが自由に使えるように豊かな供えを示したいと望んでおられる。だから、このお方は試練や失望がわたしたちに來ることをお許しになるのである。それは、わたしたちが自分たちの無力さを悟り、そして助けを求めてご自分に呼び求めることを学ぶことができるためである。このお方は非常に硬い岩からも冷たい水を流すことがおできである。

わたしたちは、神と顔と顔をあわせてお会いし、わたしたちが知られているように、わたしたちが見るようになるときまでは、どれほど多くの重荷をこのお方がわたしたちのために負ってくださったか、そして、わたしたちが子供のような信仰でこのお方の許へ携えて行ったならば、どれほど多くの重荷をこのお方が喜んで負ってくださるはずであったかを決して知ることはない。……

神の愛は、ご自分の民に対するこのお方のすべての取り扱いにあらわされている。そしてはっきりとした曇りのない目で、わたしたちは、逆境のときに、病のときに、失望のときに、そして試練のときに、キリストのみ顔に輝くこの方の栄光の光を眺め、このお方の導きの手に信頼しなければならない。しかし、あまりにもしばしば、わたしたちは、自分たちの不信によって、このお方の心を悲しませる。……

神はご自分の子らを愛しておられる。そしてこのお方は、サタンが彼らを打ち倒そうする失望を、彼らが克服することを見たいと望んでおられる。不信に道を譲ってはならない。あなたの困難を拡大してはならない。神が過去折々に示してくださった愛と力を思い出さない。(サイズ・オブ・タイムズ 1906 年 12 月 12 日)

信仰によってさわる

「み衣にさわりさえすれば、なおしていただけるだろう、と心の中で思っていたからである。イエスは振り向いて、この女を見て言われた、『娘よ、しっかりしなさい。あなたの信仰があなたを救ったのです』。するとこの女はその時に、いやされた」(マタイ9:21,22)

無頓着に宗教の事柄を語ったり、魂の本当の飢え渇きや生きた信仰なしに霊的な祝福を祈ったりすることによって得るものはほとんどない。好奇心の目をもってキリストの周りにひしめき合っていた群衆は接触しても何の生命力も感じなかった。しかし、この哀れな苦しむ女が、自分の大変な必要に迫られて、自分の手を伸ばして、イエスの衣のすそにさわったとき、彼女は癒しの力を感じた。彼女がさわったのは、信仰によってであった。キリストはこの接触にお気づきになり、終わりの時代に至るまでご自分に従う者たちに教訓を与えようと決心された。このお方は力がご自分から出て行ったのをご存知で、人ごみの中で振り返り、「わたしの着物にさわったのはだれか」と言われた。このような質問に驚いて、弟子たちは「ごらんのとおり、群衆があなたに押し迫っていますのに、だれがさわったかと、おっしゃるのですか」と答えた。

イエスは、さわった女に目を留められた。彼女は恐れに満たされた。彼女の喜びは大変なものであった。しかし、彼女は自分の本分の度を越えてしまったのであろうか。自分のうちで何がなされたのかを知って、彼女は震えながらやって来て、イエスの足元にひれ伏し、このお方に真実をすべて語った。キリストは彼女をお責めにならなかった。このお方はやさしく「安心して行きなさい。すっぴりなおって、達者でいなさい」と仰せになった。

ここで信仰によって触ることと無頓着に触ることが区別されている。祈りと説教は、神を信じる生きた信仰を働かせなければ、空しい。しかし、信仰によってさわるならば、わたしたちに力と知恵の神の宝庫を開く。そして、こうして、土の器を通して、神はご自分の恵みの不思議を成し遂げられるのである。

この生きた信仰が、今日わたしたちに大いに必要とされている。わたしたちは、イエスが本当にわたしたちのものであることを知らなくてはならない。このお方の御霊が、わたしたちの心を清め精錬することを知らなければならぬ。もし、キリストの信者たちが柔和と愛と共に本物の信仰を持っているならば、彼らはどんな働きを成し遂げていることであろうか! 神に栄光を帰するどんな実が見られることであろうか! (レビュー・アンド・ハラルド 1887年12月13日)

神はわたしの必要を満たされる

「わたしの神は、ご自身の栄光の富の中から、あなたがたのいっさいの必要を、キリスト・イエスにあつて満たして下さいであらう」(ピリピ 4:19)

わたしたちが暗闇や失望のうちにいるときには、生きた信仰を働かせるのが難しい。しかし、他のどんなときよりも、この時こそ、信仰を働かせる時なのである。「しかし、」とある人は言う。「わたしはそんな時はとても信仰をもって祈る気持ちになれません」。では、あなたは、自分が単にサタンに抵抗する気がしないからといって、サタンに勝利を許してしまうのか。サタンが、あなたが最も神の助けを必要としているのがわかると、彼はあなたに神から後ずさりさせようとする上なく熱心に試みる。もし彼が力の源からあなたを遠ざけておけるなら、彼はあなたが闇と罪のうちに歩むことになるのを知っているのである。不信ほど大きな罪はない。そして不信が心の中にあるとき、それを表現する危険がある。唇はくつわと馬具で押さえられているかのように閉じられているべきである。さもないと、この不信を表現してしまうことによって、あなたは他の人に害のある影響力を及ぼすばかりでなく、自分自身を敵の陣地に置くことになってしまう。

もしわたしたちが神を信じるならば、わたしたちは、キリストの義で武装される。わたしたちはこのお方の力をつかんできたのである。……わたしたちは、自分たちの救い主があたかもすぐかたわらにおられるかのようにこのお方と歩みたいのである。……

わたしたちが自分たちの信仰の信任状、すなわち愛と喜びと平安を携えていくことはわたしたちの特権である。わたしたちがこうするとき、わたしたちは、キリストの十字架の力強い論証を提示することができる。わたしたちが、感情ではなく、信仰によって歩むことを学ぶとき、わたしたちは、まさに必要としているときに、神から助けを得る。そしてこのお方の平安がわたしたちの心にもたらされる。エノクが生活したのは従順と信頼のこの単純な生涯であつた。もしわたしたちがこの単純な信頼の教訓を学ぶなら、彼は神を喜ばせたとの彼に対する証はわたしたちのものとなり得るのである。(ヒストリカル・スケッチ 132,133)

わたしたちが、生きた信仰を働かせることによって、神に自分たちの魂の守りをゆだねるなら、このお方の約束は失望に終わらない。なぜなら、わたしたちの信仰以外に何の制限もないからである。(サインズ・オブ・タイムズ 1906年11月14日)

朝に祈る

「主よ、朝ごとにあなたはわたしの声を聞かれます。わたしは朝ごとにあなたのためにいけにえを備えて待ち望みます」(詩篇 5:3)

朝、魂のまず第一の呼吸はイエスのご臨在を求めるべきである。「わたしから離れては」とこのお方は仰せになる、「あなたがたは何一つできないからである」。わたしたちが必要なのは、イエスである。このお方の光、このお方の命、このお方の精神が、絶えずわたしたちのものとならなくてはならない。わたしたちは、このお方を毎時間必要としている。そしてわたしたちは朝、太陽が地を照らし、そして世を光で満たすように、義の太陽が思いと心の部屋の中を照らし、そしてわたしたちをまったく主にあつて光となしてくださるように祈るべきである。わたしたちはこのお方がいなければ、一瞬もいられない。敵はわたしたちが、自分たちの主から離れて、何かを引き受けるときを知っていて、そこにいる。彼は、わたしたちをその堅固さから転落させようと、自分の邪悪なほのめかしでわたしたちの思いをいっぱいにする用意ができています。しかし、わたしたちが一瞬一瞬このお方につながり、こうしてこのお方のうちで完全であることがこのお方の願いである。

.....

神はわたしたち一人ひとりをご自分にあつて完全であるようにと計画された。そうすれば、わたしたちは世にこのお方の完全なご品性を代表することができる。このお方はわたしたちが罪から解放されて、わたしたちが天を失望させることなく、わたしたちの神聖なあがない主を悲しませることがないようにと望んでおられる。このお方はわたしたちがキリスト教を告白しながら、自分たち自身は、何も欠けているところのない完全にすることのできる恵みを自らのものとしないうちに望まれない。(パウル・エー 1892 年 1 月 15 日)

祈りと信仰はこの世のどんな力もできないことをする。わたしたちはあらゆる点で同じ事情に二度と立つことはめったにない。過去の経験をどれほど持っていたとしても、それが良い案内になってくれない新しい場面や試練を絶えず通過しなければならない。であるから、神から来る光を常に受けていなければならない。キリストの声に耳を傾ける人にキリストはいつもみ言葉を送っておられる。(ミストリー・オブ・ヒーリング 495)

我々がこのようにして求めなければ与えられないものが、信仰の祈りに答えて、我々にさづけられることが、神のご計画の一部である。(各時代の大争闘下巻 270)

祈りが不要となることはない

「目をさまして、感謝のうちに祈り、ひたすら祈り続けなさい」(コロサイ4:2)

神に祈りをささげるのに、不適當な時とか場所とかはない。熱心な祈りの精神をもって心を天に向けるのに妨げとなるものはなにもない。雑踏した路上でも、商取引の最中でも、神に願いをささげて導きをこうことができる。(キリストへの道 136)

わたしたちは、道を歩いているときも、このお方に語りかけることができる。そしてこのお方は、わたしはあなたの右側にいると仰せになる。わたしたちは、わたしたちの心の中でこのお方と交わることができる。わたしたちはキリストを道連れとして歩むことができる。わたしたちが日ごとの働きに携わっているとき、わたしたちは、他人の耳は聞くことのできない自分の心の願いを吐き出すことができる。しかし、その言葉は沈黙のうちに死滅することはないし、失われてしまうのでもない。魂の願いをかき消すことはできない。それは、街路の喧騒を越えて、機械音を越えて上る。わたしたちが語りかけているのは神であり、わたしたちの祈りは聞かれるのである。(福音宣伝者 258)

恵みと力を求める熱心な嘆願はすべて答えられる。……神に、あなたが自分ではできない事を求めなさい。イエスにすべてを話しなさい。このお方の前にあなたの心の秘密を打ち明けなさい。なぜなら、このお方の目は魂のもっとも深い奥底まで探られ、あなたの思想を開かれた本のようにお読みになるからである。あなたは自分の魂の益のために必要なものを求めたら、あなたはそれらを受けると信じなさい。そうすればあなたはそれらを受けするのである。このお方の賜物をあなたの全気で受け入れなさい。なぜならイエスはあなたが天の尊い物をあなた自身のものとし、ついには天使たちと神の王国で住まいを見出すことができるために死なれたからである。(ユース・インストラクター 1892 年 7 月 7 日)

もしあなたが祈るための声と時間を見出すならば、神は答えるための時間と声を見出してくださるであろう。(レビュー・アンド・ヘラルド 1890 年 4 月 1 日)

絶えず祈りなさい

「これらの起ろうとしているすべての事からのがれて、人の子の前に立つことができるように、絶えず目をさまして祈っていなさい」(ルカ 21:36)

このお方が、たびたび祈りのうちにおられたこと、そして、このお方の生涯は絶えず、新鮮な聖霊の靈感によって支えられていたのだということを覚えていなさい。あなたの思想、あなたの内なる命が、あなたが神の日にその記録に直面しても恥じないようなものとしなさい。

天は義人の熱心な祈りに対して閉じられてはいない。エリヤはわたしたちと同じような性質を持っている者であったが、なお主は聞かれて、最も顕著な方法を持って彼の嘆願に答えてくださった。神に関してわたしたちが力に欠乏している唯一の理由は、わたしたち自身に見出される。もし真理を告白する多くの者の内なる命が、彼らの前に提示されたならば、彼らはクリスチャンだと主張しなくなるであろう。彼らは恵みに成長していない。性急な祈りが時々捧げられるが、そこには、真の神との交わりがない。

わたしたちは、神聖な生活において、もっと進展したいのならば、もっと祈らなければならない。真理のメッセージがはじめに宣布されたとき、わたしたちはどれほど祈ったことであろう。どれほどしばしば、会見の間で、家で、果樹園で、木立でとりなしの声が聞かれたことであろう。しばしばわたしたちは、二、三人が共に集まって約束をわがものと主張して、熱心な祈りのうちに、数時間を費やした。しばしば涙声が聞かれ、それから感謝の声と讃美が聞かれた。いまや神の日はわたしたちがはじめに信じたときよりも近い。そしてわたしたちは、そのときより、もっと真剣に、もっと熱心に、熱くなるべきである。わたしたちの危険はそのときより今のほうがはるかに大きい。魂はもっと硬くなっている。わたしたちは、今やキリストの霊を吹き込まれる必要がある。そしてわたしたちは、それを受けるまで安んじるべきではない。(教会への証 5 巻 161、162)

救い主と語る習慣をつけなさい。助け、光、力、知識を求めて絶えず心を沈黙のうちに天に向けなさい。そして一つ一つの呼吸が、すべて祈りとなるべきである。(ミストリー・オブ・ヒーリング 496)

祈りにある力

「わたしの名によって願うことは、なんでもかなえてあげよう。父が子によって栄光をお受けになるためである」(ヨハネ 14:13)

へりくだった心と悔いた霊の祈りを、このお方は軽んじられない。わたしたちの心を天父に開くこと、わたしたちがまったく依存していることを認めること、わたしたちの必要を表現すること、感謝に満ちた愛の忠誠、これが真の祈りである。(サイン・オブ・タイムズ 1886 年 7 月 1 日)

天使は心からの熱心な祈りをすべて記録している。われわれは、神との交わりを怠るよりも、利己的な満足を求めることをやめるべきである。神の是認の下にある最低の貧困、最大の自己犠牲は、是認のない富、栄誉、安楽、友情にまさっている。われわれは、時間をかけて祈らなければならない。もしわれわれが世俗のことに心を奪われているならば、主は、金、家屋、肥えた土地などの偶像を、われわれから取り去ることによって、われわれに時間をお与えになるかもしれない。

もし青年が、神の祝福を求めることができる道のほかには、どんな道に入ることをも拒むならば、罪に誘われることはない。世界に最後の厳粛な警告を伝える使命者たちが、冷淡で無気力で怠惰な態度でなくて、ヤコブのように、熱烈に、信仰をもって神の祝福を祈り求めるならば、「わたしは顔と顔をあわせて神を見たが、なお生きている」と言うことのできる多くの場所を見いだすであろう(創世記 32:30)。天は彼らを、神と人にとり勝つ力をもった王子たちとみなすのである。(各時代の斗争闘下巻 396)

信仰をもって捧げられる真の祈りは、嘆願する者にとって力である。祈りは、捧げられるのが公の集会であっても、家族の祭壇であっても、密室であっても、人を直接神のみ前に置く。絶えず祈ることによって、青年は、もっとも強力な誘惑も彼らを神の忠誠から引き離すことはできないほど堅固な原則を獲得するのである。(ユース・インストラクター 1900 年 2 月 15 日)

キリストの教会、また、クリスチャン個々の最大の勝利は、……その勝利とは、神との交わりの部屋で熱心に苦闘する魂が、信仰によって力強いみ腕をつかむときに得られる。(人類のあけぼの上巻 221)

祈りを通して神を見出す

「その時、あなたがたはわたしに呼びわり、来て、わたしに祈る。わたしはあなたがたの祈を聞く。あなたがたはわたしを尋ね求めて、わたしに会う。もしあなたがたが一心にわたしを尋ね求めるならば」(エレミヤ 29:12、13)

二種類の祈りがある。形式の祈りと信仰の祈りである。神の必要を感じることなく決まっていたものの言葉を繰り返すのが形式的な祈りである。……わたしたちは、すべての祈りにおいて、心の必要を語り、本当に自分たちが思っていることを言うように、細心の注意を払うべきである。わたしたちが自由に使うあらゆる美辞麗句はひとつの聖なる願いにも相当しない。もし、祈りが心の真の気持ちを表現しないならば、もっとも雄弁な祈りも、むなしい繰り返しに過ぎない。しかし、真剣な心からの祈りは、あたかも地上での友人がかなえてくれると思ってお願いをするかのように、魂の単純な必要が表現されるとき、これが信仰の祈りである。祈るために宮に参上した取税人が、誠実で献身した礼拝者としての良い模範である。彼は自分が罪人であることを感じ、そして自分の大きな必要が熱烈な願いとなって、ほとぼしり出たのである。「神様、罪人のわたしをおゆるください」。……

わたしたちが自分の嘆願を捧げた後、わたしたちは、自分たちでできることを神がわたしたちのためにしてくださることを待つことなく、自分たち自身、できる限りその祈りに答えなくてはならない。神の助けはそれを求めるすべての者のために蓄えられている。神の助けは人間の努力、向上心、そして精力と結合されるべきである。しかし、わたしたちは天の胸壁に自分たち自身で上らずには、到達することはできない。わたしたちが、自分で祈ることを怠っているが、他人の祈りによって担ぎ上げられることはできない。なぜなら、神はわたしたちにそのような備えをしてはおられないからである。……わたしたちの側で努力がなされないことには、わたしたちの品性にある好ましくない特徴が取り除かれることもないし、そして純潔ですぐれた特徴に取って代わられることもない。……主によって残された手本に従うためにわたしたちが努力するとき、わたしたちは曲がった線を引いてしまうかもしれない。……しかし、わたしたちは努力をやめてはならない。……一時の失敗によってわたしたちはますますキリストにより頼むようになるべきである。(パウル・エー 1887 年 11 月)

祈りの生涯の模範

「あなたがたがわたしにつながっており、わたしの言葉があなたがたにとどまっているならば、なんでも望むものを求めるがよい。そうすれば、与えられるであろう」(ヨハネ 15:7)

父祖たちは祈りの人たちであった。そして神は、彼らのために大いなることをなされた。ヤコブが異国の地に行くために自分の父親の家を離れたとき、彼は心低く悔悟のうちに祈った。そしてその夜、主は幻を通じて彼にお答えになった。……主は尊い約束をもって、孤独なさすらい人を慰められた。そして保護天使たちが彼の道の両脇に駐屯しているのが描かれた。……

ヨセフは祈った。そして彼は神から離れさせるためにもくろまれた感化力のただ中で罪から守られた。純潔と高潔の道からはなれるように誘惑されたとき、彼は「どうしてわたしはこの大きな悪をおこなって、神に罪を犯すことができません」といって、この誘いを拒絶した。

モーセは、多く祈ったが、地上にいる人間の中でもっとも柔和な者として知られていた。……彼が荒野でイスラエル人たちを導いていたとき、何度も何度も、彼らはそのつぶやきと反逆のために滅ぼされるかのように見えた。しかし、モーセは真の力の源の許へ行った。彼は主の前に問題をおいた。……そして主は仰せになった。「わたしはあなたの言葉のとおりにゆるそう」。……

ダニエルは祈りの人であった。そして神は、彼を不節制のわなに引き入れるために仕組まれたあらゆる影響力に抵抗する知恵と堅固さを彼にお与えになった。彼は青年期にあつてさえ、全能者の強さのうちにあつて道徳的な巨人であった。……

ピリピの牢獄の中で、自分たちが受けた残酷なむちや、足かせにつながれた足の苦しみに耐えながら、パウロとシラスは神に祈り讃美した。そして天使たちが天から彼らを解放するために送られた。地はこれらの天来の使命者たちの足音に震え、そして牢獄の戸は勢いよく開き、囚人たちを自由にした。(バイブル・エコー 1887 年 11 月)

祈りは全能者をつかみわたしたちに勝利をもたらす。(バイブル・エコー 1889 年 10 月 1 日)

母親の祈り

「しかし主はこう言われる、『勇士がかすめた捕虜も取り返され、暴君が奪った獲物も救い出される。わたしはあなたと争う者と争い、あなたの子らを救うからである』」（イザヤ 49：25）

神の戒めを守る者たちは、自分の子供たちを何とも言えない希望と恐れ of 思いをもって眺める。彼らが自分たちの目前に迫っている大争闘において、どのような役割を果たすのであろうかと思ひ巡らしながら。心配な母親は「彼らはどのような立場をとるであろうか。わたしは彼らが自分たちの役割を首尾よく果たし、永遠の栄光を受ける者となるために、どのように彼らを準備させることができるだろうか」と尋ねる。

母親方よ、あなたには大きな責任が負わされている。……あなたは彼らが悪を行うように影響されたり、感化されたりすることなく、かえって善を行うように他人に影響を与え、感化する品性を発達させるために助けることができる。あなたの熱心な信仰の祈りによって、あなたは世界を動かす腕を動かすことができる。……

クリスチャンの母親の祈りは、すべての人の父であられるお方に無視されることはない。……このお方は、あなたの嘆願を顧みずに、あなたとあなたの子供たちが最後の争闘の大いなる日にサタンの乱打を受けるままにしたりはなさらない。単純さと忠実さをもって働くのがあなたのなすべきことである。そうすれば、神はあなたの手の働きを確立させてくださる。（ビュー・アソッド・ヘラルド 1889 年 4 月 23 日）

地上でなされる生涯の働きは、天の宮廷で良くなされた働きとして認められる。言葉にできない喜びを持って、両親は、自分の子供たちに与えられた冠、衣、立琴とを見る。……涙と祈りとをもってまかれてきた種は空しくまかれたように見えたが、しかし、彼らはついに喜びをもって収穫を刈り取るのである。彼らの子供たちは贖われた。（サインズ・オブ・タイムズ 1886 年 7 月 1 日）

さばき主から「よくやった」との宣告がくだされ、不滅の栄光の冠が勝利者のひたいに置かれると、多くの者は宇宙の聖者たちの集まっている中で、その冠を掲げて、母親を指さし、「おかあさんが、神の恵みによって、わたしをこれまでにしてくださったのです。おかあさんの教えと祈りが祝福されてわたしの永遠の救いとなったのです」と言う。（青年への使命 330）

聖書を調べなさい

「ああ深いかな、神の知恵と知識との富は。そのさばきは窮めがたく、その道は測りがたい」(ローマ 11:33)

聖書には何千という真理の宝石が、表面的な探求者からは隠されている。真理の鉱脈は決して尽きることがない。あなたが聖書をへりくだった心で探れば探るほど、あなたの関心はますます大きくなり、あなたはもっと、パウロと共に叫びたい気持ちになる。「ああ深いかな、神の知恵と知識との富は」。……

毎日あなたは聖書から何か新しいことを学ぶべきである。それらを隠された宝のように探しなさい。なぜなら、そこには、永遠の命の言葉があるからである。これらの聖なる書き物を把握するために知恵と理解力とを祈りなさい。もしあなたがこうするならば、あなたは神のみ言葉にある新しい栄光を見出すのである。あなたは自分が真理に関係した主題について新しく尊い光を受けたことを感じる。そして、あなたは絶えず聖書に新しい価値を見出すようになる。(教会への証 5 巻 266)

救いに必要な偉大な真理は、真昼のように明らかにされてきた。……一つの聖句が、多くの魂にとって命から命にいたる香りであることが過去において証明されてきたし、将来も証明されるであろう。人が勤勉に探るとき、聖書は新しい真理の宝を開く。それは、思いにとって明るい宝石のようである。(サイン・オブ・タイムズ 1906 年 7 月 11 日)

もしあなたがもっとも豊かな宝を見出したいのであれば、あなたは、真理の鉱山を深く掘り下げなくてはならない。聖句と聖句を比較することによって、あなたはその聖句の真の意味を見出すことができる。しかし、もしあなたが神のみ言葉の聖なる教えを自分の生活の規則また指針としないならば、真理はあなたにとって何の役にも立たない。……もし神のみ言葉のある部分が、何かあなたの大事にしてきた習慣を、何かあなたが抱いてきた感情を、また何かあなたが表してきた精神を責めるとき、神のみ言葉から背を向けてはならない。かえってあなたの行いの悪から背を向けてイエスにあなたの心を清め、聖化してもらいなさい。(ユース・インストラクター 1892 年 7 月 28 日)

聖書に並ぶものはない

「わたしに呼び求めよ、そうすれば、わたしはあなたに答える。そしてあなたの知らない大きな隠されている事を、あなたに示す」(エレミヤ 33:3)

他のどの研究も、思想と感情と大志を、聖書研究ほど高尚にするものはない。他のどの本も思いの疑問と心の渴望を満たすことはできない。神のみ言葉の知識を獲得することによって、そしてそれらに注意を払うことによって、人間は無知と墮落の最も低い深みから、神の子となり、罪のない天使たちと交わるところまで上ることができるのである。……

教育する力として、聖書には並ぶものはない。啓示の卓越した真理をつかもうとする努力ほど、すべての能力に活力を与えるものは他にない。思いは徐々にいつも考えている主題に適応する。もし、ただ平凡なことばかりが思いを占めているならば、思いは矮小化し、弱くなってしまう。……

この様式と主題が幅広いので、聖書はすべての思いに興味を起こさせ、すべての心に訴えるものがある。……このもつとも単純に述べられた真理には、天のように高く、永遠を包含する原則が含まれている。(サインズ・オブ・タイムズ 1906年4月11日)

聖書が価値のある指針を含んでいないような状況は人生にないし、そのような人類経験の面もない。統治者も臣民も、主人も僕も、買う人も売る人も、借りる人も貸す人も、親も子供も、教師も生徒も、みなここに代価のつけられない価値のある教訓を見出すのである。

しかし、他のすべてに勝って、神のみ言葉は、救いの計画を明らかにしている。どのようにして罪深い人間が神と和解するかを示し、わたしたちの生活を支配すべき真理と義務の偉大な原則を規定し、それらを守るときに神の助けを約束する。それはこの世のはかない生涯を越えており、人類の短い悩みの多い歴史を越えている。それは、わたしたちの目前に、永遠の年月、罪によって暗くされておらず、悲しみによって曇らされていない年月の展望を開く。(ビュー・アット・ヘヴル 1912年8月22日)

聖書は新しい命を生む

「あなたがたが新たに生れたのは……神の変わることをない生ける御言によったのである」(ペテロ第一 1:23)

聖書には神のみ旨が明らかにされている。神のみ言葉の真理はいと高き者の言葉である。これらの真理を自分の生活の一部とする者は、あらゆる意味において新しい被造物である。彼は、新しい精神力を与えられるのではなく、無知と罪によって、理解力を曇らせていた暗闇が取り除かれるのである。み言葉は、「わたしは新しい心をあなたがたに与え」とは、「わたしはあなたに新しい思いを与える」という意味である。心の変化はいつもクリスチャンの義務のはっきりした得心と真理の理解を伴う。厳密に祈りをもって聖書に注意を払う者は、あたかも神の方に向かって、自分が知性の最高の高地に到着したかのようにはっきりした理解力と健全な判断力を得る。

聖書には、それが個人のためであれ、国家のためであれ、あらゆる真の偉大さ、あらゆる真の繁栄の基礎にしかれる原則がある。聖書の出版が自由になされる国家は、人々の思いに発展と拡大の道を開く。聖書を読むと、闇に光が輝く。神のみ言葉が探られると、命を与える真理が見出される。そこにある教えに注意を払う者の生活には、彼らが接触するすべての人を祝福する幸せの低流がある。(レビュー・アソシエイト 1913 年 12 月 18 日)

何千もの人々がこれらの命の井戸から水を引いてきた。そしてなお、その供給量が先細りすることはない。何千もの人々が主を自分たちの前に据え、そして眺めることによって同じ姿に変えられてきた。彼らの精神は、キリストが自分たちにとってどういうお方であり、自分たちがキリストにとってどういう者であるかを語りつつ、このお方のご品性を述べる時、彼らのうちに燃える。……幾千を越える人々が救いの奥義を探り出す働きに携わることができる。……新しく探求するたびに、今までに明らかにされてきたこと以上に何かもつと深く興味深いことが表されるのである。(サインズ・オブ・タイムズ 1906 年 4 月 18 日)

わたしの助言者と案内役

「あなたはさとしをもってわたしを導き、その後わたしを受けて栄光にあずからせられる」(詩篇 73:24)

わたしたちが必要としているクリスチャンの証拠は、人間の経験の中にはなく、わたしたちの聖書の中に見出されるのである。神のみ言葉はわたしたちの助言者である。なぜなら、それはわたしたちに各時代にわたって伝えられ、変わらない真理に対して証を担ってきたからである。いにしえに、その時々にはふさわしく神のみ言葉が弁護されてきたが、そのどれ一つとして、陳腐化してはいない。聖書のどの部分もいにしえより死滅してはいない。神の民の過去の歴史全体を今日わたしたちは研究すべきである。それは記録された経験からわたしたちが恩恵を受けるためである。(手紙 117 1897 年)

人間は言葉を守らない。そして自分たちが信頼に足る者ではないことを表す。しかし、神は変わらないお方である。このお方のみ言葉は永遠に同じである。(レビュー・アンド・ヘルド 1900 年 2 月 6 日)

御言を家庭における案内役としての榮譽ある地位におきなさい。それをあらゆる困難における助言者、あらゆる行動の標準として尊重しなさい。……神の真理と、義の知恵とが治めない限り、家庭の輪の中にいるどの魂にも真の繁栄は決してありえない。(手紙 117 1898 年)

わたしたちはみな、砂洲や岩底の川をわたる船乗りが水先案内人を必要としているように、人生の多くの狭い道を通じて案内役を必要としている。……

海図と磁石を持っていながら、それを使うのを怠る船乗りは、自分の船に乗っている乗客の命を危険な状況におくことに対して責任がある。船は彼の怠慢のせいで失われるかもしれない。わたしたちは神のみ言葉という案内書をもっている。そしてわたしたちが、天国へ行く道で迷子になるなら、言い逃れはできない。なぜなら、はっきりとした指示がわたしたちに与えられているからである。(サインズ・オブ・タイムズ 1906 年 3 月 21 日)

聖書は品性の完全な標準を提示している。それは、あらゆる状況下において、人生の旅路の終わりまで、絶対確実な案内役である。(同上 1906 年 3 月 21 日)

わたしの魂のための食物

「わたしはみ言葉を与えられて、それを食べました。み言葉は、わたしに喜びとなり、心の楽しみとなりました」(エレミヤ 15：16)

どの人の思いでも、聖書の一つの真理、あるいは一つの約束を研究し尽くすのは不可能である。ある者はある視点から栄光をとらえるが、他のものは別の視点からとらえる。それでもなお、わたしたちはただかすかなひらめきを識別しているだけである。完全な輝きは、わたしたちの視力を超えている。わたしたちが神のみ言葉の偉大な事柄を熟考するとき、わたしたちは自分たちの熟視しているところより下の方へと広がり、深くなっていく泉の中を見入っているのである。その広さと深さとはわたしたちの知識を越えている。わたしたちが熟視するとき、展望が広がる。わたしたちの前に広がっている果てしない、終わりのない海原があるのを眺めるのである。そのような研究には生き生きとさせる力がある。思いと心は新しい力、新しい命を得る。

この経験は、聖書は神が著者であるという最高の証拠である。わたしたちは、パンを体のための食物として受けるときと同じ証拠によって、魂のための食物として神のみ言葉を受ける。わたしたちは経験によって、それが血と骨と脳を形成することを知っている。これと同じ分析を聖書に当てはめて見なさい。その原則が実際に品性の要素となるとき、その結果は何であろうか。生活にどのような変化がもたらされるであろうか。「古いものは過ぎ去った、見よ、すべてが新しくなったのである」。その力によって、男女は罪深い習慣の鎖を断ち切ってきた。彼らは利己心を放棄してきた。不敬な者が敬神的な者となり、酔っ払いがまじめになり、放蕩者が純潔になった。サタンに似て生まれた魂が神のみかたちに変えられてきた。変化そのものが奇跡の中の奇跡である。み言葉によってなされる変化が、み言葉のもっとも深い奥義の中の奥義の一つである。わたしたちはこれを理解することができない。わたしたちは、ただ、聖書によって宣言されているとおり、「あなたがたのうちにいますキリストであり、栄光の望みである」ということを信じることができるだけである。この奥義の知識は、すべて他のものに対する鍵を与える。それは、魂に対して、宇宙の宝庫、すなわち無限の発展の可能性を開く。(サイズ・オブ・タイムズ 1906 年 4 月 25 日)

わたしの光

「み言葉が開けると光を放って、無学な者に知恵を与えます」（詩篇 119 : 130）

〔神のみ言葉〕は、暗いところに輝く光である。わたしたちがそのページを探るとき、光が心に差し込んで、思いを照らす。この光によって、わたしたちは、自分たちがどのような者にならなければならないかを悟るのである。

わたしたちは、み言葉のうちに、警告と約束、それらの背後に神がおられるのを悟る。わたしたちは、逆境に置かれたときの助けを得るためにこのみ言葉を探るようにと招かれている。もしわたしたちが一步ごとにこれは主の道であろうかと案内書に尋ねて、相談しないならば、わたしたちの言葉と行動には、利己心のしみがついてしまう。わたしたちは神を忘れて、このお方がわたしたちのために選んではこれなかった道を歩むことになる。

神のみ言葉は尊い約束と助けになる勧告とで満ちている。それは無謬である。なぜなら、神は誤ることがおできにならないからである。そこには生涯のあらゆる環境と状況のための助けがある。そして神はご自分の子らがそれに背を向けて人間の助けを求めるとき、悲しくご覧になる。

聖書を通して神と交わる者は、高尚にされ聖化される。彼は、救い主の愛の靈感の記録を読むとき、その心がやわらかくなり悔悟のうちに溶けてしまう。彼は、自分の主人であるお方のようにになりたい、愛する奉仕の生涯を送りたいという願いに満たされる。……ご自分の力の奇跡によって、このお方は各時代を通じてご自分の記されたみ言葉を保ってこられた。（サインズ・オブ・タイムズ 1906 年 3 月 28 日）

この書は偉大な神の指導書である。……それはその光を前方に輝かし、旅する道をわたしたちが見えるようにする。そして、その光線は過去の歴史に投げかけられ、闇の中にある思いにとっては誤りと不一致に見えたものの中に、もっとも完全な調和を示している。世俗的な者には、説明できない奥義に見えたものの中に、神の子供たちは光と美しさを見るのである。（レビュー・アンド・ヘラルド 1900 年 2 月 6 日）

幸せなのは、自分自身で神のみ言葉が自分の足のともしびであり、自分の道の光、すなわち暗いところに輝く光であることを発見した人である。それは人間にとって天の指導書である。（手紙 207 1904 年）

わたしの心のうちにある宝

「どうか、彼の口から教を受け、その言葉をあなたの心におさめるように」(ヨブ記 22:22)

あなたが絶えず聖書を探り、神の真理を思いに蓄えることは最も重要なことである。あなたはクリスチャン仲間の交わりから離れて、神の子らと会う特権のないところへ置かれるかもしれない。あなたは神のみ言葉の宝をあなたの心に隠す必要がある。(パウル・エー 1892 年 10 月 15 日)

啓示の全分野にわたって、砂金、すなわち神の知恵の箴言が散らばっている。もしあなたが賢い者であれば、あなたはこれらの尊い真理の粒を集めるであろう。神のみ約束をあなた自身のものとしなさい。そのとき、試みと試練が来ると、これらの約束があなたにとって、天来の慰めの喜ばしい泉となる。(手紙 25 1903 年)

試みがしばしば抵抗できないもののように見えるのは、祈りと聖書研究を怠っているために、試みられている者が神のみ約束をすぐに思いだすことができず、聖書という武器をもってサタンに対抗することができないからである。しかし天使たちは、神の事柄を喜んで学ぼうとする人々のまわりにいて、緊急の場合には必要な真理を思い起こさせる。こうして、「敵が洪水のように押し寄せるときに、主の霊はそれに向かって旗をあげられる」。(各時代の大争闘下巻 367)

神のみ言葉の尊い真理が蓄えられる心は、サタンの誘惑に対して、また不純な思想や、清くない行動に対して防備が固められる。(ユース・インストラクター 1892 年 7 月 28 日)

聖書に近くいなさい。あなたがみ言葉を探り、説明すればするほど、あなたの思いと心は、祝福された励ましと約束の言葉で強くされる。(手紙 76 1901 年)

その尊い約束を暗記しようではないか。そうすれば、わたしたちが自分の聖書を取りあげられたときにも、なお神のみ言葉を所有していることができる。(レビュー・アソシエイト・ヘラルド 1910 年 1 月 6 日)

朝夕の礼拝

「さあ、われらは拝み、ひれ伏し、われらの造り主、主のみ前にひざまずこう」（詩篇 95：6）

主はこの地上にいるご自分の子らの家族に特別な関心を持っておられる。天使たちは、祈る聖徒たちのために芳しい香の煙を捧げている。そうであれば、すべての家庭において、朝と日没の涼しい時間に祈りが天に昇るようにしよう。わたしたちのために神のみ前に救い主の功績を提示しよう。朝に夕に全天はすべての祈る家庭に注意を払っている。（原稿 19 1900 年）

柔らかい愛情に満ちた心で、あなた自身とあなたの子供たちの前にある誘惑と危険とを感じて、へりくだって来なさい。彼らのために主の保護を求めつつ、信仰によって彼らを祭壇に結び付けなさい。仕える御使たちが、神に捧げられた子供たちを守ってくれる。（教会への証 1 卷 397、398）

家庭礼拝は、状況に支配されるべきでない。あなたは、自分の大仕事のある日にはそれをなおざりにするような都合で祈るべきではない。そうすることによって、あなたは自分の子供たちが祈りを特別な重要性のないものとしてみなすように導くのである。祈りは神の子らにとって大いに意味のあるものであり、感謝のささげ物は、神のみ前に朝に夕に上るべきである。詩篇記者は「さあ、われらは主にむかって歌い、われらの救の岩にむかって喜ばしい声をあげよう」という。（原稿 12 1898 年）

神を礼拝することは喜びでなければならない。……また神は、礼拝に集まる人々が、神の尊い守護と愛を深く感じて帰り、日常のどんな仕事も喜んでなすことができ、神の恵みによって、すべてのことを正直に忠実になすことができるようにと望んでおられる。（キリストへの道 133）

家庭において、贖い主に誉れと栄光を帰す小さな教会を持つことができる。（原稿 102 1901 年）

わたしたちに良い家庭宗教があるならば、わたしたちには、すばらしい会衆宗教があるであろう。（原稿 70 年月日不詳）

彼らに努めて教えよ

「きょう、わたしがあなたに命じるこれらの言葉をあなたの心に留め、努めてこれをあなたの子らに教え……なければならない」（申命記 6：6,7）

ヨセフは、少年時代に、神を愛し畏れることを教えられた。シリアの星空のもとに張られた天幕の中で、彼は父ヤコブから、ベテルの夜の異象、天と地の間にかけられたはしごやそれを上り降りしていた天使たちや天の御座からご自身をヤコブに表わした神についての物語を聞かされた。父がヤボクの河畔で格闘したあげく、心の中に宿っていた罪を絶ったときに勝利者となり、「神と共なる君」という称号をうけた物語も聞かされた。

羊飼いの少年として、父の羊の群れの見張りをしていたヨセフの純朴な生活は、彼に体力と知力の発達をもたらした。ヨセフは、自然を通して神と交わり、聖なる委託物として父から子へ伝えられたとうい真理を学んで、堅実な精神と確固たる原則を身につけた。（教育 48）

モーセが家庭の暖かい保護から離れたのは、ヨセフやダニエルよりも年少の時であった。しかしこのときすでに、ヨセフやダニエルの一生を形づくったのと同じ力によって、彼の一生は形づくられていた。モーセがヘブルの肉親と共に暮らしたのはわずかに十二年にすぎなかったが、この年月の間に、彼の偉大さの基礎が築かれたのであった。しかもそれは、世に名も知られない者の手によって築かれたのであった。……

世は……大きな祝福を、ナザレのマリヤを除いては、他のどんな女からも受けたことはない。彼女は、子供がまもなく自分の手を離れることを知った。……彼女は幼いモーセの心に、神に対する愛と忠誠心を植えつけようとした。そして、この働きは、忠実になし遂げられた。（教育 58、59）

聖書研究を愛する心を起こさせ、強めるかは、大いに礼拝の時間をどのように用いるかにかかっている。朝夕の礼拝の時間は、一日の中でもっとも待ち遠しく、助けとなるべきである。これらの時間には、わずらいや不親切の思いが侵入してはならないこと、親と子供がイエスにお会いし、家庭に聖天使の臨在を招くために集まるのだということを理解しよう。（サインズ・オブ・タイムズ 1906年9月26日）

神のみ前にひざまずけ

「主のみまえにへりくだれ。そうすれば、主は、あなたがたを高くして下さるであらう」(ヤコブ4:10)

すべての家が祈りの家となるべきときがあるとすれば、それは今である。不信と懐疑論とが広くいきわたっている。悪が満ちている。墮落が魂の命の潮流のうちに流れており、そして神に対する反逆が生活の中で勃発している。罪の奴隷にされ、道德力がサタンの圧政のもとにある。魂は彼の誘惑にもてあそばれている。そして何らかの力強い腕が人を救うために伸ばされない限り、人は大反逆者の導く道へと行くのである。

そしてなおこの恐ろしい危険の時代にあってさえ、クリスチャンだと公言する者の中には、家庭で祈らない者がいる。……

祈りが不可欠ではないという考えは、サタンが魂を墮落させるために最も成功を収めている考案物である。祈りは神との交わりである。知恵の泉であり、力と平和と幸福の源である。イエスはみ父に「激しい叫びと涙とをもって」祈られた。……ヤコブは「お互のために祈りなさい。義人の祈は、大いに力があり、効果のあるものである」と言っている」。

真心から熱心に祈ることによって、親は自分の子供たちの周りに間垣を設けるべきである。彼らは、神が彼らと共に宿ってくださり、聖天使たちが自分たちと自分の子供たちをサタンの残酷な力から守ってくださるという完全な信仰をもって祈るべきである。……

親が自分の子供たちを朝日が昇る前に自分たちの周りに集めて、天父を指し示すことは何とふさわしいことであろう!このお方は、彼らにこれほどまでに惜しみなく、ご自分の摂理の賜物を与えてくださるお方である。彼らが夜間の保護を神に感謝し、日中の神の助けと恵みとこのお方の御使たちの見守りを求めることは何とふさわしいことであろうか!そして、また夕方には、もうひとたびこのお方の前に集まって、このお方に過ぎ去った日のあわれみと祝福のために讃美することとは何とふさわしいことであろうか! (パシフィック・ユニオン・レコーダー 1902年5月22日)

互いに自分の罪を告白せよ

「だから、互に罪を告白し合い、また、いやされるようにお互のために祈りなさい。義人の祈は、大いに力があり、効果のあるものである」(ヤコブ 5 : 16)

わたしは、わたしたちの民に、家庭における宗教が必要であることを最も熱心に説得するようにと指示されている。家族の間では、いつも親切で思いやり深い配慮があるべきである。朝夕には、すべての心が神を敬う礼拝において一つとなるようにしよう。夕礼拝では、家族全員がよく自分自身の心を吟味しよう。犯した悪はすべて正しくされるようにしよう。もし、日中に、だれかがだれかに対して不親切に語ったならば、その違反者が傷つけた相手の許しを求めるようにしよう。しばしば思いの中に不平の種が抱かれていて、不要な誤解や心痛が造り出される。もし悪い事をしたと思われる人に機会が与えられるならば、その人は、家族のほかの人たちに安堵をもたらす説明をすることができる。

「だから、互に罪を告白し合い、また、いやされるようにお互のために祈りなさい」。それは、あなたがすべての霊的な弱さを癒され、罪深い性質が変えられることができるためである。永遠のために勤勉に働きなさい。主にこの上なく熱心に祈りなさい。そして、信仰を堅持しなさい。肉の腕に信頼することなく、絶対的に主の導きに信頼しなさい。各々がいまや、「わたしについて言えば、わたしは、出てきて、世から分離します。わたしは全心に主に仕えることを決意します」と言うのである。……

主は、ご自分の寵愛をご自分の戒めを守る人々に表してくださる。み言葉、生けるみ言葉が受け入れられ、それに従うとき、命から命にいたる香りとなる。真理を受け入れることによって、罪深い心が新たに再生され、清められる。

この個人的な品性の清めの働きを、遅らせては安全ではない。……告白と祈りによって、あなたの立場を今後永遠にわたって、完全に主の側に置きなさい。……わたしたちは、自分たちのささげ物が神に受け入れられるものとなるために、この告白と魂のへりくだりの働きを遅らせる余裕はない。満ち満ちた喜びは、完全に神に屈服するとき見出されるのである。(ビュー・アード・ヘルド 1906年11月8日)

神を礼拝し、平安であれ

「あなたの子らはみな主に教をうけ、あなたの子らは大いに栄える」(イザヤ 54:13)

あなたの家庭は、それ自体で小さな世界である。……あなたがたは、自分の子供たちが神に仕えるか、あるいは富に仕えるか、永遠の命か、あるいは永遠の死のどちらを選ぶかを決定しなければならない者である。……

いにしへの父祖たちのように、神を愛すると公言する者たちは、自分たちの幕屋を張ったところはどこでも、このお方への祭壇を立てなければならない。……家庭の祭司である父親は、神の祭壇の上に朝夕ごとに犠牲を捧げよう。そして、妻と子供たちは祈りと讃美において一致しよう。イエスはそのような家庭にとどまることを愛される。

すべてのクリスチャン家庭から、聖なる光が輝き出るべきである。愛がすべての行動に表されるべきである。それは、すべての家庭の交わりにあふれ出て、それ自体が、思いやり深い親切、やさしい、利己心のない礼儀に表される。この原則が実行されている家庭がある。神が礼拝され、もつとも真実な愛が君臨している家庭である。これらの家庭から朝夕ごとに祈りが神に芳しい香りとして立ち上り、そしてこの方の憐れみと祝福が嘆願する者の上に、朝露のごとくに下るのである。(レヴィ・アソ・ヘラルド 1902 年 12 月 23 日)

わたしたちは、とかくこの世のことに心を奪われがちであるが、天の開かれた聖所のとびらを見上げ、「彼によって神にきた人々を、いつも救うことができるのである」キリストのみ顔に神の栄光が輝いているのをながめよう。……

わたしたちの魂は、賛美の歌に乗って天に近づく。神は天の宮廷で、歌と音楽をもって礼拝を受けておいでになる。であるから、わたしたちも感謝をささげるならば、天軍の礼拝に近づくことができるのである。「感謝のいけにえをささげる者はわたしをあがめる」とある。わたしたちも「感謝と歌の声」をもって喜びのうちにもうやうやく創造主のみ前にいこう。(キリストへの道 141 - 144)

テモテの生涯は家庭宗教の結果

「あなたは、自分が学んで確信しているところに、いつもとどまっていなさい。あなたは、それをだれから学んだか知っており、また幼い時から、聖書に親しみ、それが、キリスト・イエスに対する信仰によって救に至る知恵を、あなたに与える書物であることを知っている」(テモテ第二 3:14、15)

キリストの名を告白する者たちは、家庭で祭壇を築くことをなおざりにしない。彼らはそこで日ごとに、宗教の集会で神を求めるときの熱心さそのままにこのお方を求めることができるのである。(レ・ビュー・アンド・ヘラルド 1889年10月22日)

わたしたちはテモテの生活と品性から、この面における尊い教訓を学ぶことができる。テモテは、子供のころから聖書を知っていた。宗教が彼の家庭の雰囲気であった。彼の家庭生活の敬神は、純潔に感じられるものであり、偽りの考えによって墮落していなかった。……神のみ言葉がテモテを導いた規則であった。彼は、規則に規則、教訓に教訓、ここにも少し、あそこにも少しとその指導を受けた。そしてこれらの教訓の霊的な力は、彼が言葉を純潔に保ち、あらゆる墮落した考えに束縛されないよう彼を守っていた。彼の家庭での指導者たちは神と協力し、この若い青年が、早い時期に彼に負わされることになっていた重荷に耐えられるよう教育した。……

聖書の教訓は、それが実生活で実践されるとき、品性に対する道徳的で宗教的な感化力をもっている。テモテは、これらの教訓を学び、実行した。彼は、特別に驚くような才能を持つてはいなかったが、しかし、彼の働きは、価値があった。それは、彼が神から与えられた自分の能力を神の奉仕に捧げられた賜物として用いたからである。彼の真理と経験的な敬神の知的な知識は、彼に非凡さと感化力を与えた。聖霊は、テモテの中に、聖霊の住む宮として形作り、形成することのできる思いを認めた。……

青年は、自らを聖書の教えのもとに置き、自分たちの日ごとの思想と実生活にそれらを織り込むべきである。そうすれば、彼らは天の宮廷で最も高く分類される特質を自分のものとしてすることができる。彼らは自らを神のうちに隠し、そして彼らの生涯は、このお方の栄光を告げるのである。ユース・インストラクター 1898年5月5日)

アブラハムは行くところどこでも祭壇を築いた

「時に主はアブラムに現れて言われた、「わたしはあなたの子孫にこの地を与えます」。アブラムは彼に現れた主のために、そこに祭壇を築いた。彼はそこからペテルの東の山に移って天幕を張った。……そこに彼は主のために祭壇を築いて、主の名を呼んだ」（創世記 12：7,8）

神の友であるアブラハムの生涯は、祈りの生涯であった。彼は、どこでも自分の天幕を張ると、その近くに祭壇を築き、そこで朝夕の犠牲を捧げるのであった。彼が天幕を動かすと、祭壇はそこに残った。そして、流浪しているカナン人がその祭壇のところに来ると、そこにだれがいたかがわかるのであった。そして彼が自分の天幕をそこに張ったときには、その祭壇を修繕して、生ける神に礼拝した。

クリスチャンの家庭もそのように世にある光となるべきである。……父親、母親方よ、毎朝夕ごとに自分の子供たちを自分たちの周りに集め、そしてへりくだった嘆願のうちに、助けを求めて自分たちの心を神のところに掲げなさい。あなたのいという者たちは、誘惑と試練にさらされている。毎日わずらいが老若の道を取り囲んでいる。忍耐強く、愛する、元気な生活を送りたい者は祈らなければならない。勝利は、ただ決然たる揺るがない目的、耐えざる見張り、そして神からの絶え間ない助けによってのみ獲得できるのである。

両親方よ、朝ごとに自分と自分の家族をその日のために神にささげなさい。何ヶ月もあるいは何年も計算してはならない。それらはあなたの物ではない。短い一日だけがあなたに与えられているのである。それがあなたの地上における最後の日であるかのごとく、その間、主人のために働きなさい。あなたのすべての計画を神のみ前におき、神のみ摂理が教えるとおりにそれを実行したり、取りやめたりしなさい。このお方のご計画を、自分自身の計画の代わりに受け入れなさい。たとえ、それを受け入れることによって、大事にしていた事業をやめなくてはならなかったとしてもである。このようにして生涯は、ますます神の模範に従って形成されるようになるのである。（パシフィック・ユニオン・レコーダー-1902年5月22日）

永遠だけがそのような礼拝の時間に伴う良い結果を明らかにすることができる。（パシフィック・ユニオン・レコーダー-1902年5月22日）

研究 1

七つの封印と生ける神の印



「イエス・キリストの啓示」

「イエス・キリストの啓示」

「イエス・キリストの黙示（啓示）…。 時が近づいているからである。」（黙示録 1:1-3）

聖書の最後の書は、「イエス・キリストの啓示」だと言われています。啓示とは、明らかにされたことを指します。

ある人は、黙示録を「これは封じてあるから読むことができない…（学問がないから）読むことはできない」と言いますが（イザヤ 29:11-12）、それは、この書の名称からも、はじめに述べられた上記の説明からも、またキリストご自身が言われた「この聖書は、わたしについてあかしをするものである」という言葉からも得ることのできない見解です。

事実、「この書の教えは明確で、不可解でも不明瞭でもない」のです（原稿リース9巻7）。

また、この書は「イエス・キリストの啓示」であって、それ以外のものに注意を向けさせるものではありません。

「わたしたちはある分野では、すなわちローマ権力と法王権に関しては、語る言葉を少なくするがよい。しかし、わたしたちは預言者と使徒たちが、神の聖霊の靈感の下に記したことに注意を向けさせるべきである。聖霊は預言を与えるにも、事件を描写するにも、人間を視野から締め出し、キリストのうちに隠されるように、また主なる天の神とその律法が高められるように、事態を方向づけられた。」（牧師への証 112）

聖書を調べるということは、とりもなおさず、イエスを知ることであり、イエス

が見えなくなるようであれば、それは聖書研究とは言えないのです。イエスご自身が「聖書を調べなさい。……この聖書は、わたしについてあかしをするものである」と言われました(ヨハネ 5:39)。そして、イエスが弟子たちに聖書研究をなさったとき、「ご自身についてしるしてある事」を説き明かしてくださったのです。

「こう言って、モーセやすべての預言者からはじめて、聖書全体にわたり、ご自身についてしるしてある事どもを、説きあかされた。」(ルカ 24:27, 44)

「ダニエル書と黙示録がよりよく理解されるならば、信徒たちはまったく違った宗教経験を持つようになる。」(牧師への証 114)

預言の書も例外ではありません。ですから、預言の書を正しく研究するとき、イエス様をよく知るようになり、このような知識によって、学んだ人は「全く違った宗教経験を持つよう」になります。

それでは、モーセやすべての預言者は、どのようにイエスのことについて記しているのでしょうか。

モーセ：

創世記 3:15(Seed: すえ); 22:18; 26:4; (in thy seed:あなたの子孫によって)
49:10, (シロ) 民数記 21:6-9. (青銅のへび) 申命記 18:15, ヨハネ 5:45-47,
使徒行伝 3:22; 7:37. (ひとりの預言者)

すべての預言者：

ルカ 24:25 (預言者たちが説いたすべての事) ; 詩篇 16:9-10 (あなたの聖者に墓を見させられない)、132:11 (あなたの身から出た子のひとり) ; イザヤ 7:14 (男の子を産む。その名はインマヌエルとなえられる)、9:6 (ひとりのみどりごがわれわれのために生れた)、40:10-11 (主は牧者のようにその群れを養い)、50:6(恥とつばきとを避けるために、顔をかくさなかった)、52:13-4(彼の顔だけは、そこなわれて)、53:1-12 (彼は侮られた。われわれも彼を尊ばなかった) ; エレミヤ 23:5-6, 33:14-5 (一つの正しい(義なる) 枝) ; エゼキエル 34:23 (彼は…彼らの牧者となる)、37:25 (わがしもバダビデが、永遠に彼らの君となる) ; ダニエル 9:24-6 (メシヤなるひとりの君) ; ミカ 5:2 (イスラエルを治める者)、7:20 (真実を…示し) ; ゼカリヤ 9:9 (あなたの王)、13:7

(牧者を撃て)；マラキ 3:1-3 (契約の使者)，4:2 (義の太陽)；ヨハネ 1:45 (ナザレのイエス)；使徒行伝 3:24 (サムエルをはじめ、…預言者はみな、この時のことを予告した)、10:43 (預言者たちもみな、イエスを…あかしをしています)、13:27-30 (神はイエスを死人の中から、よみがえらせた)；黙示録 19:10 (イエスのあかし)

ですから、聖書はすべてのことを、これらの言葉によって確かめるようにと教えています。

「律法 (モーセ) と証 (すべての預言者) とに 求めよ。もし彼らの言葉これらにかなわずば、しのめあらじ。」(イザヤ 8:20 (文語訳))

神の小羊を見よ

モーセと全ての預言者は、来たるべきイエスを人々に指し示しました。

そして、そのイエスが実際に人々の間に来られたとき、バプテスマのヨハネは目の前におられるイエスを人々に指し示したのです。

「あなたがたによく言っておく。女の産んだ者の中で、バプテスマのヨハネより大きい人物は起らなかった。……すべての預言者と律法とが預言したのは、ヨハネの時までである。」(マタイ 11:11-13)

「彼は、キリストの初臨に道を備えたことにおいて、主の再臨に民を備えさせる人々を代表していた。」(各時代の希望上巻 100)

「見よ、世の罪を取り除く神の小羊。」(ヨハネ 1:29)

「十字架にかかれながら、キリストは福音であられた。今、わたしたちには、「見よ、世の罪を取り除く神の小羊。」というメッセージがある。わたしたちの教会員は、十字架につけられ、よみがえられた救い主、すなわちわたしたちの永遠の命の希望が集中しておられるお方に、自分たちの目を留めないであろうか。これこそ、わたしたちのメッセージ、わたしたちの論拠、わたしたちの教理、悔い改めない者へのわたしたちの警告、悲しめる者へのわたしたちの励まし、そして全ての信徒のための希望である。もし、わたしたちが人の思いに関心を目覚めさせ、キリストに目を留めさせることができるなら、わたしたちはわきへよけ、彼らに神の小羊に目を留め続けるようにと頼むのである。彼らはこうして自分たちの教訓を受ける。だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架

を負うて、わたしに従ってきなさい。イエスに目を留めている者は、全てを捨てる。彼は利己心に死ぬ。彼はキリストのうちにこれほどまでに栄光に満ち、すばらしく高められている神のみ言葉をすべて信じるのである。

罪人がイエス、すなわちことごとく憐れみに満ちた救い主をありのままに見るとき、希望と保証が彼の魂をとらえる。」(SDA パイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 6 巻 1113 (ガラテヤ 6:14:4))

「もしわれわれがキリストのものなら、キリストについて思うことが一ばん楽しい思いである。われわれはキリストについて語ることを好む。そしてお互いにキリストの愛について語るとき、われわれの心は天来の感化によってやわらげられる。キリストの品性の美しさをみつめることによって、われわれは、「栄光から栄光へと、主と同じ姿に変えられていく」のである(コリント第 3:18)。」(各時代の希望上巻 80)

バプテスマのヨハネが初臨の時に人々にイエスを指し示したように、終わりの時代の神の民もイエスを指し示します。

「第三の天使は、〔黙示録 14:12 引用〕と言って、メッセージを終わっている。彼は、この言葉を繰り返したときに、天の聖所を指さした。」(初代文集 414)

「テストの時がわたしたちに迫っている。なぜなら第三天使の大いなる叫びは、罪を許す贖い主、キリストの義の啓示のうちにすでに始まっているからである。これは全地をその栄光で満たす天使の光の始まりである。なぜなら、イエスを掲げ、このお方を型で表された通りに、象徴のうちに影がうつされた通りに、預言者たちの啓示のうちに明らかにされた通りに、弟子たちに与えられた教訓や人の子らのためになされたすばらしい奇跡のうちに覆いがはずされた通りにこのお方を世に提示することは、警告のメッセージが与えられた全ての人の働きだからである。聖書を調べなさい、なぜなら、それはこのお方を証するからである。」(セクレット・メッセージ 1 巻 362:1892 年)

「あなたがたの神を見よ!」(イザヤ 40:9)

それでは、このことを覚えながら、ヨハネの黙示録、すなわちイエス・キリストの啓示の中に記された「印」一七つの封印と生ける神の印一を見ていきましょう。聖書の中で「印」はどのように用いられているのでしょうか。

聖書の中の印：

1. 書類上に (契約)
2. 民の上に (特別な所有)

聖書は、新旧約 (Old and New Testament) から成っていますが、この Testament は「神と人類の間の契約」という意味を持っています (ウェブスター辞書 1913 年版)。

それでは、どのようにして神と人との間の契約が結ばれ、印が押されたのか、実例を見ましょう。エジプトで奴隷状態であったイスラエル人が、神の民として救出され、神との契約関係に入った時のことです。

古い契約 – 条件 & 約束

まず契約の条件です。

「『それで、もしあなたがたが、まことにわたしの声に聞き従い、わたしの契約を守るならば、あなたがたはすべての民にまさって、わたしの宝……わたしに対して祭司の国となり、また聖なる民となるであろう』。……民はみな共に答えて言った、『われわれは主が言われたことを、みな行います』。」 (出エジプト記 19:4-8)

その契約の条件を理解した上で、血をもって契約が結ばれました。

「その時モーセはその血の半ばを取って、鉢に入れ、また、その血の半ばを祭壇に注ぎかけた。そして契約の書を取って、これを民に読み聞かせた。すると、彼らは答えて言った、『わたしたちは主が仰せられたことを皆、従順に行います』。そこでモーセはその血を取って、民に注ぎかけ、そして言った、『見よ、これは主がこれらのすべての言葉に基いて、あなたがたと結ばれる契約の血である』。」 (出エジプト記 24:5-8)

「モーセが書きしるしたのは、十誡ではなくて、神が彼らに守らせようとお望みになった法規と、彼らが神に従うことを条件としてあたえられた約束だった。モーセがこれを民に読みきかせると、人々は神の仰せたもうたことばに従うことを誓った。そこでモーセは、民の厳粛な誓約を一つの書に書き、民のために神に犠牲をささげた。」 (霊的賜物 3 巻 (生き残る人々 144-5))

契約書の内容を確認し、よく理解したうえで、血によって印が押されたのでし

た。血をもって契約を結ぶことは、通常、当事者が各々自分の命をかけて誓約することを意味しますが、この神との契約は契約を守る保証として、神が両者のために御子の血を民に注いで下さいました。これは人知を超えた恵みです。

「血を注ぐことは、イエスの血を降り注ぐことを表していた。その血によって人間は罪から清められるのである。」(ビュー・アノド・ハルド 1906 年 8 月 16 日)

「ここで民は契約の条件を受け入れた。彼らはイエス・キリストにおいて神と全ての信徒の間で結ばれる契約を象徴した厳粛な契約を神と結んだのであった。条件は民の前に明白にされた。彼らがそれらを誤解する余地はなかった。彼らが与えられた全ての条件に同意するかどうかを決定するよう要求されたとき、彼らは全会一致で全ての義務に従うと同意した。彼らはすでに神の戒めに従うことに同意していた。律法に従うことがどれほどのことを含むかを知ることができるように、今律法の原則が詳細に述べられたのであった。そして彼らは律法の具体的に明らかにされた詳細を受け入れた。

もしイスラエル人が神のご要求に従うならば、彼らは特別なクリスチャンとなるのであった。彼らは幸福になるのであった。なぜなら、彼らが自分たちの肉の心の傾向に従わず、神の道を守るからであった。モーセは彼らが主のみ言葉を曲解したり、このお方のご要求を誤用したりするままにはしなかった。彼は彼らが後に参照できるように、主の全ての言葉を書物に記した。山で彼はキリストご自身が言われたとおりに、それを記したのであった。

民の会衆の前で神の契約が読まれるのを聞いた後、大胆にイスラエル人は主への従順を約束する言葉を語った。彼らは「わたしたちは主が仰せられたことを皆、従順に行います」と言った(出エジプト記 24:7)。その時、民は取り分けられ、神に対して印を押されたのであった。主に犠牲が捧げられた。犠牲の血の一部が祭壇に注がれた。これは民が自ら一体、思い、魂一を神にお捧げしたことを意味していた。一部は民に注がれた。これはキリストの注がれた血を通して、神が恵み深くも彼らをご自分の特別な宝としてお受け入れになったことを意味していた。こうしてイスラエル人は神との厳粛な契約関係に入った。」(原稿リ-ス1 卷 114-5)

(48 ページの続き)

そのみずばらしい小屋で、救い主イエスはお生まれになり、かいばおけに寝かされました。そのいやしいまぶねの中に、いと高きお方のみ子—そのご臨在(りんざい)によって天の宮廷を栄光(えいこう)で満たしていたお方—がねむっておられます。

神の子イエスはこの地球にこられる前、天使たちに命じる司令官であられました。創造(そうぞう)の時に、もっともかがやかしく、もっとも高められた明けの明星の子らが、このお方の栄光のさきぶれをしました。彼らは、このお方がみ座に座しておられたとき、そのみ前で自分たちの顔をおおったのでした。彼らはイエスの足元に冠(かんむり)を投げ出して、このお方の偉大(いだい)さを見たとき、その勝利を歌いました。

しかしその栄光に満ちたお方が、あわれな罪人を愛して、しもべのかたちを取り、わたしたちのために、苦しみと死をお受けになったのです。

イエスは父のかたわらに残って、王冠と王衣をまとっていることもおできでした。しかし、わたしたちのために天の富を地の貧しさにかえることを選ばれたのです。

このお方は高い指揮権(しきけん)を後にし、ご自分を愛する天使たちを残されました。天の群れの崇敬(すうけい)を悪人たちのののしりやあざけりにかえることを選ばれました。そしてわたしたちを愛されたゆえに、困難(こんなん)の生涯と屈辱(くつじょく)の死を受け入れてくださったのです。

キリストがすべてこれらのことをして下さったのは、神さまがどれほどわたしたちを愛されるかを示すためでした。このお方はわたしたちが神のみ旨(むね)に従順(じゅうじゅん)であることによってどれほど神を尊ぶことができるかを示すためにこの地上で生活してくださいました。このお方がそうして下さったのは、わたしたちがご自分の模範(もはん)に従うことによって、ついにはこのお方の天の住まいでこのお方と共に住むことができるためでした。(つづく)

ピーマンの詰め焼き

〔材料〕

ピーマン	6 個
グルテンバーガー乾燥	50 グラム
玉ねぎ	1 / 4 個
ニンニク	一片
えのき（みじん切り）	少々
トマトソース市販の物（バジル、オリーブオイル、玉ねぎ）	100cc
塩	少々
粉末昆布だし	少々
粉	大さじ1
片栗粉	少々

カシューナッツのソース

ココナツミルク	1 カップ
豆乳	1 / 2 カップ
カシューナッツ	1 カップ
ガーリックソルト	小さじ1

〔作り方〕

1. 乾燥バーガーを戻し一時間ほどしたら、水を切ります。
2. フライパンに油をしき、玉ねぎとニンニクを炒め色づいたら、バーガーとえのきを加え、ほどよく火が通ったところで粉を入れてまとめます。
3. そこへトマトソースを加え、冷まします。
4. ピーマンを半分に切り、種をのぞき、片栗粉をまぶします。
5. 炒めた具材を詰めてから、上にもう一度片栗粉をまぶします。
6. カシューナッツのソースの材料をミキサーに入れて、何度かフラッシュをかけてカシューナッツが砕けたら、なめらかなクリーム状になるまで、よくまわします。（フードプロセッサーでもできますが、出来上がりが少し荒めです）
7. 出来上がったカシューナッツのソースにかけて、180 度のオーブンで7～8 分、ソースに色目がつくまで焼きます。

教会プログラム (毎週土曜日)

安息日学校 : 9:30-10:45 (公開放送)

礼拝説教 : 11:00-12:00 (公開放送)

午後の聖書研究 : 14:00-15:00

【公開放送】 <http://www.4angels.jp>



聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

□聖所真理



お申込先 : 〒350-1391 埼玉県狭山郵便局私書箱 13 号「福音の宝」係
是非お申し込み下さい。

書籍

【永遠の真理】聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよみもの。



【安息日聖書教科】は、他のコメントを一切加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。



イエスの物語

第1話 イエスさまのお誕生（上）

ガリラヤの丘にかこまれた小さな町ナザレにヨセフとマリヤの家がありました。この二人は後に知られるイエスさまのご両親です。

ヨセフはダビデの家系でした。ですから、民に課税（かぜい）するとの法令（ほうれい）が出されたとき、名前を登録（とうろく）するためにダビデの町であるベツレヘムに行かなければなりませんでした。その当時、旅行するのは大変なことでした、これもとても骨のおれる旅でした。夫と一緒にでかけたマリヤは、丘の上にあるベツレヘムにのぼり、たいへんつかれてしまいました。

彼女は長旅のつかれで、どれほど心地の良い休み場がほしかったことでしょう！ですが、宿屋は満室でした。お金持ちでいばった人は大事にされましたが、このつつましい旅人たちは家畜（かちく）が宿にしているそまつな小屋を休み場にしなければなりませんでした。

ヨセフとマリヤはこの世での財産はもっていませんでした。しかし彼らは神さまの愛をもっていました。そしてこれは彼らを満足と平和に満ちたものにしてくれました。彼らは天の王さまの子どもでした。そしてこの王さまはまもなく、彼らにすばらしい栄誉（えいよ）を与えようとしておられたのです。



天使たちは彼らが旅をするあいだ、彼らを見守っていました。そして夜が来て、彼らが休む時も、彼らはとり残されることはありませんでした。天使たちはまだ彼らと共にいました。

（45 ページに続く）